

横浜市立大学 大学院

国際マネジメント研究科

研究科案内

2025

ビジネスの
最先端を
リードする人材へ

公立大学法人 横浜市立大
YAMAHAMA CITY UNIVERSITY 横浜市立大

YCU
横浜市立大学

ビジネスの最先端をリードする人材へ

近年のグローバル化による社会・経済活動の変化により、大学院は、新たな学問領域の創設や社会制度の変革の一翼を担う必要があります。

国際マネジメント研究科では、急速なグローバル化により、国際市場環境の直接的な影響を受けるようになった企業の環境に注目し、国際的な経済環境の変化を素早く合理的に分析し、的確な戦略を実行でき、企業の海外進出、特にアジアへの進出に重点を置き、本格的な海外展開を検討する企業およびこれらの企業を支援する組織に対して、国際的なマネジメントの知識、戦略およびセンスを備えた人材を育成します。

横浜市立大学沿革

明治	4年	仮病院設立	7年	文理学部を改組、国際文化学部・理学部設置	
	5年	横浜中病院開院。中病院を移転、横浜共立病院開院		横浜市立大学看護短期大学部設置	
	7年	十全医院に改称	8年	大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置	
	15年	横浜商法学校設立	9年	大学院経済学研究科(博士後期課程)設置	
	21年	横浜商業学校に改称		医学部附属高等看護学校廃止	
	24年	横浜市十全医院に改称	10年	大学院医学研究科(医科学専攻/修士課程)設置	
大正	6年	横浜市立横浜商業学校(Y校)に改称	12年	医学部附属浦舟病院を医学部附属市民総合医療センターに改称	
昭和	3年	横浜市横浜商業専門学校(Y専)設立	13年	大学院総合理学研究科(連携大学院/生体超分子システム科学専攻博士後期課程)設置	
	8年	横浜経済研究所設置		鶴見キャンパス設置	
	19年	横浜市立経済専門学校に改称	15年	大学院医学研究科(博士課程)再編	
		横浜市立医学専門学校設置	17年	公立大学法人横浜市立大学発足	
		横浜市立医学専門学校附属十全医院に改称		商学部・国際文化学部・理学部の3学部を統合、国際総合科学部設置	
	22年	旧制大学に昇格、横浜医科大学となる。		看護短期大学部募集停止。医学部に統合し医学部看護学科を設置	
	24年	新制大学として横浜市立大学設置(商学部)		経営学研究科、経済学研究科、理学研究科、国際文化研究科を統合、	
		横浜市立大学経済研究所に改称		大学院国際総合科学研究科設置	
		横浜医科大学病院に改称		教養部、経済研究所廃止	
	27年	文理学部設置		公立大学法人横浜市立大学附属病院、公立大学法人横浜市立	
		横浜市立大学と統合、医学部設置		大学附属市民総合医療センターとなる	
	29年	横浜市立大学医学部病院に改称	20年	看護短期大学部廃止	
	36年	大学院医学研究科(博士課程)設置	21年	大学院国際総合科学研究科再編、都市社会文化研究科、生命	
	38年	教養部設置		ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を設置	
	41年	市立高等看護学校/市立准看護学校開校	22年	大学院医学研究科看護学専攻(修士課程)設置	
	45年	大学院経営学研究科(修士課程)、大学院経済学研究科(修士課程)設置	25年	大学院生命医学研究科設置	
	46年	市立高等看護学校/市立准看護学校を再編、医学部附属高等看護学校に改称	30年	データサイエンス学部、大学院医学研究科看護学専攻(博士後期課程)設置	
	59年	財団法人木原生物学研究所より移管され、木原生物学研究所設置	31年	国際総合科学部を再編し、国際教養学部、国際商学部、理学部を設置	
平成	元年	大学院総合理学研究科(修士課程)設置	令和	2年	データサイエンス研究科設置
	3年	大学院経営学研究科(博士後期課程)、大学院総合理学研究科(博士後期課程)設置		5年	データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻(博士後期課程)設置
		医学部附属病院、医学部附属浦舟病院開院			
	5年	大学院国際文化研究科(修士課程)設置			



研究科長からのメッセージ

研究科長 白石 小百合

2024年4月現在、日本では、4年間に及んだ新型コロナウイルス感染症への社会的対応が終了し、経済活動はコロナ禍以前の賑わいを取り戻しつつあります。一方で、米中対立、ロシアと中東などの世界情勢の不安定化、AI技術の進展など、これまで以上に社会経済の変化が予想されます。社会科学を教育し研究する国際マネジメント研究科では、常に社会の現実に眼を向けその変化に敏感でありたいと考えます。

先行きが不透明な現代社会の中で、国際マネジメント研究科は、国際ルールに精通し、これにより市場環境や制度の変化に対応していくスキルを身につけている人材、グローバル化の中で企業全体のクオリティを高めていける人材、および海外地域の産業集積を担っていける人材の養成を目的として2009年度に設置されました。2016年度からは、海外からも注目される日本のサービス・ビジネスについて専門的な研究を実施できるようにサービス・サイエンス研究プログラムを開設し、グローバル化を進める企業などでサービスのスペシャリストとして活躍できる人材養成

に取り組んできました。

そして国際マネジメント研究科では、2021年度から、ソーシャル・イノベーション社会人MBAプログラム(SIMBA)を設置しました。横浜市にも社会課題が多く表出する中、こうした課題解決のスキルを習得し国際社会で活躍する人材を育成することを目的としています。さらに2024年度から、欧米や国内主要大学で採用されているコースワーク型の経済学教育を展開する、YCU EconMastersプログラムを新設し、経済学をベースに高度なデータ分析手法を駆使して地域社会のウェルビーイングに貢献する人材育成を目指します。

このように、本研究科は社会の要請に応じ、常にビジネスの最先端の諸課題に対応できる人材を輩出する教育・研究機関をめざしています。明確な研究課題を持ち、その課題解決のための旺盛な研究意欲を有するみなさんが、本研究科で研鑽を積み、ビジネスの最先端をリードする人材となることを期待しています。

教育・研究の特色

従来のマネジメント教育に加え、 ソーシャル・イノベーション修士プログラム(SIMBA)を展開

SIMBAプログラムでは、社会課題解決をめざし、社会人と学生を対象とした、経営学・経済学の知識やスキルを習得するためのプログラムです。ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など社会的な諸課題に対して、データに基づく経営管理手法のスキルを活かし、地域社会で活躍する、幹部あるいは幹部候補のリーダーとして活躍する人材を育成することを目的としています。

経済学分野にYCU EconMastersプログラムを新設

国際マネジメント研究科の経済学分野(修士・博士課程)では、学部からの一貫教育によって、好調な就職(シンクタンク研究職、国立大学研究職など)や学会賞受賞などの成果がでています。そこで24年4月に、経済理論とデータ分析スキルの双方を備える人材=デジタル人材を育成する新しいプログラム「YCU EconMastersプログラム」を経済学分野に新設します。

インターンシップ、フィールドワークの単位認定

実務を重視する立場から、海外展開を行っている企業や官公庁へのインターンシップや海外の市場調査または制度調査等のフィールドワークについても単位として認定しています。

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士（経営学または経済学）
博士後期課程	3名	博士（経営学または経済学）

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	以下の科目群から30単位以上の取得、および修士論文の審査を経て修了します。	
	研究指導(8単位以上)	修士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	基礎科目(6単位以上)	マネジメント教育の前提となる基礎を固める科目
	応用科目(16単位以上)	研究の深化およびキャリアデザインに関連した科目
博士後期課程	以下の科目群から20単位以上の取得、および博士論文の審査を経て修了します。	
	特殊研究指導(12単位以上)	博士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	専門応用科目(8単位以上)	各分野の専門性を深めるための講義科目

履修モデル(博士前期課程)

以下に典型的な履修モデルを示しておきます。(1)はサービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合、(2)はソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合、(3)は両プログラムを履修せずに修了する場合のモデルです。これらの例を参考にして各自の研究目的にあわせて、研究指導員と充分相談の上、履修する科目を決めてください。

(1) サービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合

学年	科目区分	科目名	単位数	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント	2	グローバル企業、シンクタンクの研究員、ITコンサルタント	
		マーケティング	2		
		数量分析研究	2		
	応用科目	サービス・サイエンス	2		【研究テーマの例】 製品メンテナンスにおけるサービス設計、コンビニエンスストアの業務プロセス改善
		ヘルスケア・マネジメント	2		
		ヘルス情報マネジメント	2		
		グローバル・オーガニゼーションズ	2		
	サービス起業論	2			
	研究指導Ⅰ・Ⅱ	4			
2年次	応用科目	サービス・マネジメント	2		
		公会計研究	2		
		消費者行動研究	2		
	研究指導Ⅲ・Ⅳ	4			

履修例2

進出国の企業会計のメカニズム、企業分析の手法と国際会計の知識を駆使して、資金調達と海外事業展開部門に会計サービスを提供できる人材の養成

学年	科目区分	科目名	単位数	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	国際財務会計	2	国際財務部門担当者、財務・会計コンサルタント、アナリスト、CFO	
		数量分析研究	2		
		ビジネス・マネジメント	2		
	応用科目	簿記システム研究	2		【研究テーマの例】 M&A実施後における収益性の分析
		会計方法論研究	2		
		財務会計理論研究	2		
		戦略管理会計研究	2		
	サービス・サイエンス	2			
	研究指導Ⅰ・Ⅱ	4			
2年次	応用科目	サービス・マネジメント	2		
		公会計研究	2		
		企業分析研究	2		
		研究指導Ⅲ・Ⅳ	4		

(2) ソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合

学年	科目区分	24年度 予定時間	科目名	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	集中(土)	ビジネス・マネジメント	病院・介護施設経営、政策立案者、コンサルタント、非営利組織	
		平日(夜)	マーケティング		
		集中(土)	数量分析研究		
	応用科目	集中(土)	ソーシャル・イノベーション		【研究テーマの例】 サービス利用者数予測を踏まえた病院リソースの最適配置
		集中(土)	大学院特殊講義f・g(医療イノベーション経営)		
		平日(夜)	大学院特殊講義n,o(医療経営分析)		
		集中(土)	ヘルス情報マネジメント		
		集中(土)	サービス・マネジメント		
		集中(土)	大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)		
		平日(夜)	ヘルスケア・ポリシーまたはヘルスケア・エコノミクス		
	研究指導Ⅰ・Ⅱ				
2年次	応用科目	集中(土)	サービス・サイエンスまたはヘルスケア・エコノミクス		
			研究指導Ⅲ・Ⅳ		

履修例4 院生履修モデル

学年	科目区分	24年度 予定時間	科目名	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	平日	ビジネス・マネジメント	医療・福祉、国際非営利組織、地方・政府機関	
		平日	数量分析研究		
		平日	マーケティング		
	応用科目	集中(土)	ソーシャル・イノベーション		【研究テーマの例】 わが国におけるメディカル・ツーリズムの確立における課題と「おもてなし医療」の潜在的可能性
		集中(土)	大学院特殊講義f・g(医療イノベーション経営)		
		平日(夜)	大学院特殊講義n,o(医療経営分析)		
		集中(土)	ヘルス情報マネジメント		
		平日	公会計研究		
		平日	グローバル・サービス・マネジメント		
		平日	グローバル・マネジメント		
		平日	グローバル・ヒューマンリソース・ディベロップメント		
		平日	グローバル・オーガニゼーションズ		
		平日	戦略管理会計研究		
集中(土)	大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)				
	研究指導Ⅰ・Ⅱ				
2年次	応用科目	集中(土)	サービス・サイエンスまたはヘルスケア・エコノミクス		
			研究指導Ⅲ・Ⅳ		

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

履修モデル(博士前期課程)

(3) 両プログラムを履修せずに修了する場合

履修例5

在外子会社(支店)の販売管理、市場調査、社内の情報技術や財務に精通し、在外子会社(支店)の業務を統括して、グローバル・ビジネスを展開できる人材の育成

学年	科目区分	科目名	単位数
1 年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント	2
		マーケティング	2
		数量分析研究	2
	応用科目	グローバル・マネジメント	2
		グローバル・ストラテジー	2
		ファイナンシャル・マネジメント	2
		ヘルス情報マネジメント	2
		グローバル・オーガニゼーションズ	2
	研究指導I・II	4	
2 年次	応用科目	財務会計理論研究	2
		グローバル・ヒューマン・リソース・ディベロップメント	2
		大学院特殊講義	1
		大学院特殊講義	1
	研究指導III・IV	4	

【修了後の進路】

在外子会社(支店)統括マネージャー、本社
在外子会社(支店)管理部門スタッフ、CIO

【研究テーマの例】

アジアにおける生産拠点の確立から販売拠点確立へむけた課題

履修例6

ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎に、統計データに基づいた市場分析が行えるアナリスト、費用対効果に基づいた事業運営が行える行政官を育成

学年	科目区分	科目名	単位数
1 年次	基礎科目	ミクロ経済学研究	2
		マクロ経済学研究	2
		数量分析研究	2
	応用科目	ゲーム理論研究	2
		公共政策研究	2
		財政学研究	2
		金融論研究	2
		大学院特殊講義	2
	研究指導I・II	4	
2 年次	応用科目	経済政策研究	2
		国際貿易論研究	2
		ヘルスケア・エコノミクス	2
	研究指導III・IV	4	

【修了後の進路】

大学院博士後期への進学、シンクタンクの
研究員、行政官

【研究テーマの例】

非伝統的な金融政策と銀行の収益

修了後の主な進路 2021~2023年度博士前期・後期課程修了者

【就職】

ニトリホールディングス	富士通株式会社	公立大学法人横浜市立大学
株式会社NTTドコモ	楽天株式会社	横浜市役所
株式会社マイナビ	株式会社ホンダカーズ横浜	国立大学法人一橋大学社会科学高等研究院
株式会社みずほフィナンシャルグループ	中国銀行(BANK OF CHINA)	株式会社浜銀総合研究所

修士論文テーマ例 2023年度修了者

- 横浜市の小児救急拠点病院群の小児科における原価計算と経営改善のための政策提言
- 中日消費者におけるライブコマースの受容対比に関する研究
- 知覚リスクに対するユーザー生成型と企業主導型コンテンツの影響ーオンラインショッピングを対象とした考察ー
- How does remote working affect Chinese employees's job satisfaction in Japan?
- 国公立病院における高性能CTの調達:ライフサイクルコストの導入の検討
- 障害のある従業員に関するマネジャーのアイデンティティ変容
- 横浜市立大学生に向けた献血促進ナッジの研究
- Risk Premium in Foreign Exchange Rates: Evidence from Firm Survey Data
- Parental Preferences for Similarity over Child Gender

国際マネジメント研究科

教員紹介

岩佐 朋子 准教授

IWASA Tomoko

【担当科目】

(博士前期課程)
イノベーション



■ 連絡先

E-mail: iwasa@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

英国サセックス大学 修士(国際経済学)
一橋大学経済学研究科博士後期課程 博士(経済学)
文部科学省科学技術政策研究所研究員として勤務
2004(平成16)年より現職

■ 研究テーマ

企業の行動や戦略について経済学の視点から研究を行っています。特に、競争力の源泉であるイノベーションの問題や、需要の縮小に伴う産業構造の変化の問題に取り組んでいます。

■ 研究指導方針

イノベーションに関わる諸問題を理解するために、経済学、経営学、統計学などの様々なアプローチが複合的に用いられる研究分野です。国内外で発表された先行研究をしっかりと踏まえた上で、現在起こっている応用問題に取り組んでいきます。

大澤 正俊 教授

OSAWA Masatoshi

【担当科目】

(博士前期課程) ビジネス法務研究
(博士後期課程) ビジネス法務特殊研究



■ 連絡先

E-mail: osawa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 320

■ 経歴・研究活動等

1998(平成10)年 明治大学大学院 法学研究科 博士後期課程
満期退学
1998(平成10)年 横浜市立大学 商学部 専任講師
2009(平成21)年より横浜市立大学大学院 国際マネジメント研究科 教授

■ 研究テーマ

不動産の権利関係についての理論研究

■ 研究指導方針

『ビジネス法務』の研究領域は広範多岐にわたるので、個々の院生の研究目的に合わせた研究指導を行う予定です。

教員紹介

大塚 章弘 准教授

OTSUKA Akihiro



【担当科目】

(博士前期課程) 経済政策研究
(博士後期課程) 経済政策特殊研究

■ 連絡先

E-mail: otsuka@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

岡山大学大学院文化科学研究科修了。博士(経済学)。一般財団法人電力中央研究所を経て、2016(平成28)年より現職。

■ 研究テーマ

都市経済学と地域経済学に関する実証研究。持続可能な地域経済システムとエネルギーに関する経済分析を実施しています。

■ 研究指導方針

都市と地域の経済システムやメカニズムに興味を持つことが大切です。都市経済学と地域経済学の学術体系に則り、理論的検討を踏まえた実証研究を重視します。経済・産業データを収集し、研究仮説を立てて実証分析ができるよう指導します。

加藤 弘陸 准教授

KATO Hirotaka



【担当科目】

(博士前期課程) ヘルスケア・エコノミクス

■ 連絡先

文科系研究棟 317
E-mail: kato.hir.lh@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

経歴: 京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科特任助教、横浜市立大学国際商学部講師を経て、2024(令和6)年より現職。
研究活動(公刊論文): "Patient mortality after surgery on the surgeon's birthday: observational study," BMJ 2020など。

■ 研究テーマ

医療経済学を専門としています。主に日米の大規模医療データ(レセプトデータ等)を用いて、医療供給者や患者の行動を検証したり、医療政策の評価を行ったりしています。

■ 研究指導方針

医療経済学の理論や分析手法をしっかりと学んだうえで、実証分析を行ってまいります。学生が自らの問題意識に基づいた良いリサーチ・クエスチョンを立て、優れた研究を行えることを目指して指導します。

鞠 重鎬 教授

KOOK Joongho



【担当科目】

(博士前期課程) 財政学研究
(博士後期課程) 財政学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: kook@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 303

■ 経歴・研究活動等

一橋大学経済学研究科博士後期課程修了。博士号(経済学)
一橋大学経済学部助手として勤務。その後韓国租税財政研究院(国策研究機関)の研究委員を歴任。1999(平成11)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

主な研究テーマは、「人的資本投資と租税政策」、「日韓の財政・租税体系の比較研究」、及び「地方税財政や政府間財政関係」に関する分野です。これらの研究テーマは、博士論文である『人的資本投資と租税政策の経済効果』(一橋大学)と、『韓国と日本の租税体系の特性に関する比較研究』(韓国の高麗大学)とに深く関わっていますが、最近では地方税財政の研究にも関心が深いです。

■ 研究指導方針

研究指導の際、念頭に入れるべきことは、学生の現在のレベルより「少し上(slightly more)」を目指すことだと思います。レベルが高すぎると興味なくなりやすく、低すぎるとつまらないと感じやすくなるからです。この「少し上」を目指すことが研究指導方針です。

柴田 典子 教授

SHIBATA Noriko



【担当科目】

(博士前期課程) マーケティング
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: shiban@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 313

■ 経歴・研究活動等

学習院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学修士号(経営学)。2002(平成14)年に本学着任。

■ 研究テーマ

マーケティング論、消費者行動分析を専門とし、その中でもブランド論を中心とした研究、ケーススタディを行っています。象徴的消費にかかわる研究、特に「消費者行動における自分らしさ、自己表現」を自らの研究テーマとして取り組んでいます。

■ 研究指導方針

実際のマーケティング事象に強い関心があることが重要です。そして、自分の問題意識を掘り下げて研究テーマを設定し、理論と実証の両面からどのようにアプローチしていくのか、じっくりと考えていく姿勢が求められます。

白石 小百合 教授

SHIRAISHI Sayuri



【担当科目】

(博士前期課程) 数量分析研究
(博士後期課程) 計量経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: shira@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

上智大学外国語学部卒。慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得退学。博士(経済学)。社団法人日本経済研究センター、帝塚山大学を経て、2007(平成19)年より現職。

■ 研究テーマ

【行動経済学による幸福度研究、政策評価】
「あなたは全体的にみて幸せですか?」という問いを通して、人々の幸福感に対する個人の属性や社会的ネットワーク、政策の効果を研究しています。

■ 研究指導方針

実証分析を行うに当たり、現実の経済社会への関心を大切にします。計量経済学は経済学と統計学の双方を用いて分析することから、基礎的な積み重ねを重視します。

随 清遠 教授

SUI Qing-yuan



【担当科目】

(博士前期課程) 金融論研究
(博士後期課程) 金融論特殊研究

■ 連絡先

E-mail: usui@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 440

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。東京都立大学助手を経て、1993(平成5)年4月より現職。
研究活動: 著書と論文: "Money and Government: A Study of China and Japan from a Historical Perspective", 2022, Springer. 「銀行の配当政策と不良債権処理」、『金融経済研究』2018年 vol.41, pp.19-39など。

■ 研究テーマ

金融政策と銀行の産業別貸出。異なる局面における株価予測。金融危機時の景気対策と健全性維持のトレードオフについて。

■ 研究指導方針

各自の研究テーマに即して関連研究の把握、理論モデルや分析ツールの理解、独自の分析と検証などを繰り返しながら、学術論文を作成してもらいます。

教員紹介

高木 俊雄 教授

TAKAGI Toshio



【担当科目】

(博士前期課程) グローバル・ストラテジー
(博士後期課程) 経営学特殊研究(B)

■ 連絡先

文科系研究棟 332
E-mail: takagi.tos.hy@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

明治大学大学院経営学研究科博士後期課程満期退学。博士(経営学)。昭和女子大学グローバルビジネス学部を経て、2024(令和6)年より現職。経営戦略に関する研究のほか、PBL(Project Based Learning)の実施および効果に関する研究や産官学連携活動に関する研究を行っている。

■ 研究テーマ

以下のテーマを中心に研究を進めているが、これ以外でも指導が可能な領域もあるので、必要に応じて相談してほしい。
・制度的戦略に関する研究
・制度および掲げられた表象と組織行為に関する研究
・PBL/産官学連携と人材育成に関する研究

■ 研究指導方針

研究教育職をめざす学生、博士前期課程修了後に企業等に就職する学生であっても研究方法論および調査方法の習得は重要であると考えます。そのため、私の研究室ではこれらを十分に学んだうえで、各自関心を持つ対象に対して調査研究を行ってほしいと思います。

高橋 隆幸 教授

TAKAHASHI Takayuki



【担当科目】

(博士前期課程) 税務戦略研究
国際租税法研究
(博士後期課程) 会計学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: takahashi@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 334

■ 経歴・研究活動等

中央大学大学院商学研究科博士後期課程退学
修士号(商学)
税理士業を経て
2000(平成12)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

租税法のうち、主に法人税・所得税といった所得課税を研究しています。租税が、納税者の行動・意思決定に与える影響の検証を試みています。

■ 研究指導方針

修士課程1年次には、主に海外の様々な研究論文を読んで頂き、問題意識を養い、研究テーマを設定して頂きます。テーマ決定後は、論文執筆まで個別に指導します。

張 櫻馨 教授

CHANG Ying-Hsin



【担当科目】

(博士前期課程) 国際財務会計
(博士後期課程) 会計学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: chang@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 338

■ 経歴・研究活動等

横浜市立大学商学部経営学科卒(学士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科修士課程修了(修士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科博士課程修了(博士(会計学))
2005(平成17)年 横浜市立大学准教授
2014(平成26)年 同教授

■ 研究テーマ

専門は財務会計です。会計情報(日本、米国と国際財務報告基準)と経営者の情報開示戦略・投資家の行動との相互影響の解明を中心に研究を行っています。

■ 研究指導方針

研究活動を進めていくにあたって、必要な文書力、情報検索力、データ分析力とプレゼンテーション力の養成に重点を置き、指導を行います。

中條 祐介 教授

NAKAJO Yusuke



【担当科目】

(博士前期課程) 企業分析研究
(博士後期課程) グローバル・アカウン
ティング特殊研究

■ 連絡先

E-mail: nakajoy@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 339

■ 経歴・研究活動等

1992(平成4)年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得退学、横浜市立大学専任講師、2004(平成16)年同教授。2014(平成26)年国際総合科学部長、2019(平成31)年理事・副学長、日本経済会計学会副会長、2021(令和3)年日本ディスクロージャー研究会会長(2024(令和6)年3月末まで)。現在、日本会計研究学会評議員、日本インバスター・リレーションズ学会副会長、総務省地方独立行政法人会計基準等研究会座長、総務省電気通信紛争処理委員会委員、証券アナリスト検定試験委員、横浜市信用保証協会外部委員ほか。

■ 研究テーマ

(1)会計政策論(利益マネジメント研究)
(2)Non-GAAP指標の開示とその効果検証
(3)中期経営計画など非財務情報の研究
(4)財務諸表分析

■ 研究指導方針

研究テーマの設定については、院生の自主性を重視します。設定された研究テーマについて60分程度の報告と、それに対する討議を繰り返し、学位論文を作成していきます。

長畑 周史 准教授

NAGAHATA Shushi



【担当科目】

(博士前期課程)
コーポレート・ガバナンス研究

■ 連絡先

E-mail: nagahata@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 336

■ 経歴・研究活動等

2008年慶應義塾大学大学院法学研究科 後期博士課程民事法学専攻単位取得退学。青森中央学院大学経営法学部 専任講師を経て2012(平成24)年より現職。2022(令和4)年4月ブリティッシュコロンビア大学ロースクール付属アジア法研究所客員教授

■ 研究テーマ

商法(主に会社法)が私の専門分野です。現在は、内部統制と組織のガバナンスについて研究しています。

■ 研究指導方針

経営学や経済学に共通する諸問題を法学的視点から検討します。受講者は法学部出身でないことを前提に、これまでの学習内容に法学的視点を取り入れ、さらに発展させられるように指導を行います。

中園 善行 教授

NAKAZONO Yoshiyuki



【担当科目】

(博士前期課程) マクロ経済学研究
(博士後期課程) 経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: nakazono@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学部経済学科卒業。東京海上日動火災保険、早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員、早稲田大学大学院ファイナンス研究科助教を経て現職。博士(経済学)。
研究活動(公刊論文): "Strategic Behavior of Federal Open Market Committee Board Members: Evidence from Members' Forecasts," 2013, Journal of Economic Behavior & Organization, 93, pp.62-70.など。

■ 研究テーマ

専門はマクロ経済学です。経済主体が形成する期待と実体経済の相互依存関係に関心を持っています。

■ 研究指導方針

理論と実証のバランスの取れた研究指導を目指します。

中村 祐太 准教授

NAKAMURA Yuta



【担当科目】

(博士前期課程) ゲーム理論

■ 連絡先

E-mail: y_naka@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 316

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程修了。博士(経済学)。
慶應義塾大学経済学部助教を経て、2020(令和2)年より現職。

■ 研究テーマ

メカニズムデザイン/マーケットデザインというゲーム理論の応用分野を専門とし、オークションルールや選挙制度の設計に取り組んでいます。最近では、ブロックチェーン上の制度設計にも関心があり、これまでの学知をうまく活用できないか模索しています。

■ 研究指導方針

経済理論の研究には数学的知識はもちろんのこと、定理の証明をクリアに書く能力が必須となります。したがって、修士課程1年次には数学と経済理論の基礎を学んでもらい、2年次以降は海外の先端論文を読み進め興味のあるテーマを各自で設定してもらいます。

教員紹介

根本 裕太郎 准教授

NEMOTO Yutaro



【担当科目】

(博士前期課程) サービス・サイエンス
サービス・マネジメント

■ 連絡先

E-mail: nemoto.yut.wa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 324

■ 経歴・研究活動等

首都大学東京大学院システムデザイン研究科博士後期課程修了。博士(工学)。学位取得後、日本電気株式会社、東京都立産業技術研究センターを経て、2022(令和4)年9月より現職。サービス学会理事。

■ 研究テーマ

専門はサービス学、デザイン学です。社会科学のアプローチと工学のアプローチの両輪で、次のようなテーマを研究しています。ウェルビーイング志向のサービスやデザイン方法論に関する研究/サービス組織におけるテクノロジー活用に関する研究/製造業のサービスビジネスに関する研究。

■ 研究指導方針

サービス学は雑食な学問であり、様々な分野の知識を繋いでいくことで見えてくるものがあります。領域横断的な文献調査を通じて、各々が独自の知識ネットワークを構成し、密度の高い議論を展開できるよう指導します。研究指導もまたサービスであるため、その本質である価値共創を意識し、一緒に成果を創り上げていきたいと考えています。

藤崎 晴彦 准教授

FUJISAKI Haruhiko



【担当科目】

(博士前期課程)
戦略管理会計研究

■ 連絡先

E-mail: fujisaki@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 330

■ 経歴・研究活動等

早稲田大学商学部卒。早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学(商学修士)。横浜市立大学商学部講師、助教授を経て2005(平成17)年より現職

■ 研究テーマ

戦略的管理会計
現代企業経営に即した管理会計システムがどうあるべきか、主に戦略マネジメントシステムの観点から分析します。特に、1990年代以降のコストマネジメントシステムである活動基準原価計算(ABC)ならびに業績管理システムであるバランスト・スコアカード(BSC)適用に伴う組織文化への影響を考察します。

■ 研究指導方針

学生自らが問題発見、問題解決できるよう、先行研究の精読を行うとともに、学部生とともに企業訪問や工場見学といったフィールドワークも取り入れた指導を行います。

原 広司 准教授

HARA Koji



【担当科目】

(博士前期課程) ソーシャル・イノベーション
(博士後期課程) 経営学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: hara.koj.vv@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 311

■ 経歴・研究活動等

大阪市立大学商学部卒。大阪市立大学大学院経営学研究科博士前期課程修了(経営学修士)後、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野にて博士後期課程修了(社会健康医学博士)。京都大学を経て、2021(令和3)年より現職。

■ 研究テーマ

医療経営、医療経済・政策に関する研究を中心に、介護や健康全般を対象とした研究も行っています。とくに、患者満足度およびQOLの測定と評価、組織文化、医療資源の地域差に関する実証研究に取り組んでいます。

■ 研究指導方針

医療と経営学の融合を目指し、医療の特殊性を考慮に入れたうえで医療分野への経営学の知見の応用、発展を意図した研究を行ってまいります。

三浦 敬 教授

MIURA Takashi



【担当科目】

(博士前期課程) 簿記システム研究
(博士後期課程) 財務会計特殊研究

■ 連絡先

E-mail: takashim@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 340

■ 経歴・研究活動等

1985(昭和60)年3月横浜市立大学商学部卒業。1987(昭和62)年3月横浜市立大学大学院経営学研究科修士課程修了(経営学修士)。1991(平成3)年3月一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得満期退学。(主要著書)『会計ディスクロージャーの新機軸』(共編著)(東京経済情報出版)、『財務会計論講義』(共編著)(東京経済情報出版)、『検定簿記講義2級商業簿記』(共著)(中央経済社)

■ 研究テーマ

- (1) 自主的会計ディスクロージャーの効果の分析
- (2) 国際財務報告基準がわが国の会計実務に与える影響の分析
- (3) 会計ディスクロージャーにおける会計情報と非会計情報の役割

■ 研究指導方針

博士前期課程および博士後期課程ともに研究者の養成を研究指導の主眼としています。そのため博士前期課程では、研究のための基礎力の養成を目標に据え、博士後期課程では大学や研究機関で第一線の研究を進める上で不可欠な様々な能力の習得を目指します。

吉永 崇史 教授

YOSHINAGA Takashi



【担当科目】

(博士前期課程) グローバル・オーガニゼーションズ
(博士後期課程) グローバル・オーガニゼーションズ
特殊研究

■ 連絡先

E-mail: tyoshina@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 319

■ 経歴・研究活動等

青山学院大学国際政治経済学部卒業。中央三井信託銀行株式会社での勤務を経て、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了。博士(知識科学)。北陸先端科学技術大学院大学科学技術開発戦略センター研究員、富山大学学生支援センター特准准教授を経て、2013(平成25年)に着任。

■ 研究テーマ

多様性を志向する経営組織と、組織活性化のためのコミュニケーションについて、ナレッジ・マネジメント(知識経営)やナラティブ(物語)・アプローチの観点から、質的研究手法に基づき研究を行っています。

■ 研究指導方針

学生自らの問題意識に基づきリサーチ・クエスションの設定プロセスを重視します。その上で、先行研究レビュー、適切な研究方法(データ収集・分析方法)の選択、調査計画立案・実施、調査結果の考察、論文執筆について、対話を積み重ねながら指導を行っていきます。

和田 淳一郎 教授

WADA Junichiro



【担当科目】

(博士前期課程) 公共政策研究
(博士後期課程) 経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: wada@yokohama-cu.ac.jp
HP: http://juniwada.in.coocan.jp/

■ 経歴・研究活動等

一橋大学経済学部、同経済学研究科を経て、ロータリー財団の奨学金により米国メリーランド大学に留学。Ph.D.1997(平成9)年開設の本学経済学研究科博士後期課程設置にあたっての文部省による教員審査においてDマル合判定。博士号授与者の中には、中国深圳大学、福島学院大学などの専任教員もおります。現在、公共選択学会会長、計量・数理政治学研究会幹事。

■ 研究テーマ

公共選択論。主として選挙制度の研究

■ 研究指導方針

公共部門に関わる現実的な政策課題にも対応しますが、オヤジ談義に堕ちないためにも、経済学のディシプリン、数理、計量分析をきちんと身につけることを要求します。



木村 渉 国際マネジメント専攻 博士前期課程1年

卒業後の目標

卒業後は、学んできた会計や税務を生かした仕事に就きたいと考えています。理論や研究で学んだ知識は、実務に大いに繋がると考えているので、それを活かして学びと仕事に日々精進したいです。

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

より専門性を深め、社会に出たいと考えたため、5年一貫プログラムの早期履習を利用し、この研究科に進学しました。私は会計学専攻なのですが、経済、経営の分野の講義も積極的に受講することもでき、横断的に専門知識が身に付けられました。研究や講義を問わず、少人数での学びができ、先生や他の学生との距離感が近いので、能動的に頭を動かして考えられ、良かったです。

現在の研究テーマ、内容や状況

配当と自社株買いにおける課税が、企業や投資家の行動にどのような影響を与えるかを研究しています。株式会社や投資家は多額のお金を動かす分、受ける課税の額も大きいです。その中で、どのような影響や行動があるのか、統計ソフトや日経データベースを用いて、実証分析を行なっています。税務会計という税金×会計の2軸に渡り、専門性を深めている最中です。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

都会から少し離れた静かで落ち着きのあるキャンパスで、少人数で学ぶことができ、学ぶには最適な環境だと思います。「専門性を極めたい、統計などを用いて研究をしたい」という方に是非お勧めしたいです。一人一人に優しく優秀な先生方が、きっと温かく迎えてくれます。

2023年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1	会計方法論研究			上級会計学研究		
2	財政学研究			数量分析研究		
3	コーポレートガバナンス研究	税務戦略研究				
4		国際財務会計				
5		卒業演習Ⅰ(学部)				
6		研究指導Ⅰ(院)				
7						

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2				財務会計課題研究		
3						
4						
5		卒業演習Ⅱ(学部)				
6		研究指導Ⅰ(院)				
7						



楊 旭 国際マネジメント専攻 博士前期課程2年

卒業後の目標

今、就職活動をしています。将来、自分が勉強した専門知識を活かして社会で活躍できればと考えています。

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

個別の指導や密なコミュニケーションによって、より深く学び、成長したいため、YCUへの進学を決めました。それにより、教員との関係が密接になり、より充実した学習体験をすることができました。

現在の研究テーマ、内容や状況

オンラインショッピングにおける色相が消費者行動に与える影響について研究しています。企業では、消費者行動の特徴を把握する課題が顕在化しています。特にオンライン・ショッピングで消費者は製品に直接触ることができないため、製品に関する情報は、視覚から得ることが多く、感覚的訴求の効果が重要な課題になっています。その中で私は、製品によって消費者の意思決定を下すルートが異なるという視点から、ECサイトで商品の色とECサイトの背景色が消費者行動に影響するかどうかを研究しています。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

経営学の基礎知識を理解することがとても重要なことだと思います。研究科の試験のためだけでなく、入学後の授業内容理解や論理解の助けにもなると思います。

2023年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1				数量分析研究		
2	マーケティングリサーチ	マーケティング	グローバル・マネジメント			
3	コーポレートガバナンス		研究指導			
4		調査論方法				
5	ビジネス・マネジメント	グローバル・オーガニゼーション		日本語キャリアデザイン		
6						
7						

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2		サービス企業論	企業指導			
3			消費者行動研究		日本語実践	
4						
5				日本語		
6						
7						



高橋 正徳 国際マネジメント専攻 博士前期課程2年

卒業後の目標

卒業後は博士後期課程に進学したいと考えています。研究を通じて専門知識を深め、世の中に貢献できるような研究を行いたいと考えています。

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由は、前年度にYCU病院経営プログラムを受講し感じた学びやすさが一番の理由です。授業の専門性や内容の深さもさることながら、先生方の人柄や授業の雰囲気がよく、学ぶ楽しさを実感しました。現在は、自分自身にカスタマイズされた研究指導を受けられることや同期生との密度の高いディスカッションが刺激になり、日々楽しんで研究や学びを深めています。社会人学生としても、受講しやすい環境だと感じます。

現在の研究テーマ、内容や状況

高齢化の進展により介護施設の役割が増大される中、高齢者の希望に沿った医療の提供や最期の迎え方ができる仕組みが必要と考えており「高齢者入所施設における救急搬送の基準とマネジメント」をテーマとして研究を進めています。今後、横須賀市や横浜市の高齢者入所施設を対象としたインタビュー調査を行い、M-GTA法による質的研究を行います。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

国際マネジメント研究科は、社会人学生でも学ぶ楽しさを実感し、さらに追求できる環境が整っています。素晴らしい先生方や仲間との出会いがあり、新しい可能性を感じたり成長しあう貴重な場所です。ぜひチャレンジしてみてください！

2023年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2						
3						
4		調査方法論			マーケティング	
5		研究指導			マーケティング	
6	数量分析研究	研究指導				
7	数量分析研究					

後期						
月	火	水	木	金	土	
1						
2						
3						サービス・サイエンス
4			消費者行動研究			
5			よこはま経営塾 環境経済学研究 orよこはま経営塾			
6	ヘルスケア・エコノミクス	研究指導			社会科学方法論	
7	ヘルスケア・エコノミクス				社会科学方法論	



後藤 耀 国際マネジメント専攻 博士後期課程2年

卒業後の目標

卒業後については、大学院で習得した専門知識を活かし、現職を続けるか、研究者として新たなキャリアを築くか、2つの道を考えています。

YCU国際マネジメント研究科を選んだ理由や、実際に良かったところ

私は、学部から5年一貫プログラムで修士号を取得し、卒業後、社会人学生として博士後期課程に入学しました。横浜市立大学国際マネジメント研究科を選んだ理由としては、自身が慣れ親しんでいる環境であることも1つですが、少人数の大学であるため、先生方から手厚い研究指導が受けられるという点に惹かれたところが主な理由です。

現在の研究テーマ、内容や状況

研究テーマは「地方公共団体におけるデジタル化がマネジメント・コントロールに与える影響」です。昨今、話題になっているDXによる組織変革が組織に存在するマネジメント・コントロールにどのような影響を与えるのかを焦点にしています。なお、主な学問分野は、会計学における管理会計・公会計となります。現在は、地方公共団体を対象としたアンケート調査で得たデータを分析し、そこで得られた結果を学会で報告したり、論文の執筆を行っています。

これから国際マネジメント研究科の受験を考えている方へメッセージ

私は、社会人学生として、昼間は勤務しつつ、大学院に通っていますが、国際マネジメント研究科は、研究に集中ができる環境が整っていると強く感じます。もし、研究に関心があるもしくは研究したいテーマがありましたら、自身のキャリア形成の一環としても、大学院に入学することをお勧めします。

2023年度 時間割

前期						
月	火	水	木	金	土	
1	特殊指導 研究Ⅰ					
2						
3						
4						
5						
6						
7	ビジネス法務 特殊研究					

後期						
月	火	水	木	金	土	
1	特殊指導 研究Ⅱ					
2						
3						
4						
5						
6						
7						

YCU

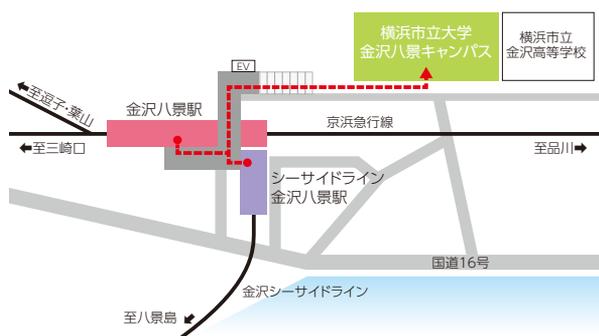
横浜市立大学



横浜市立大学 大学院
国際マネジメント研究科

金沢八景キャンパス

京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩5分



横浜市立大学

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057 https://www.yokohama-cu.ac.jp/int_manage/

LINE @yokoichi

X YCU_koho

Instagram yokohama_city_university

Facebook YokohamaCityUniv



[編集・発行]
横浜市立大学アドミッションズセンター

未来はデータで
見えてくる。

2018年4月にデータサイエンス学部を開設し、先駆けてデータサイエンティストの育成に取り組んだYCU。

そして2020年にはデータサイエンス研究科を開設。データサイエンス専攻では、博士前期課程と博士後期課程を擁し、

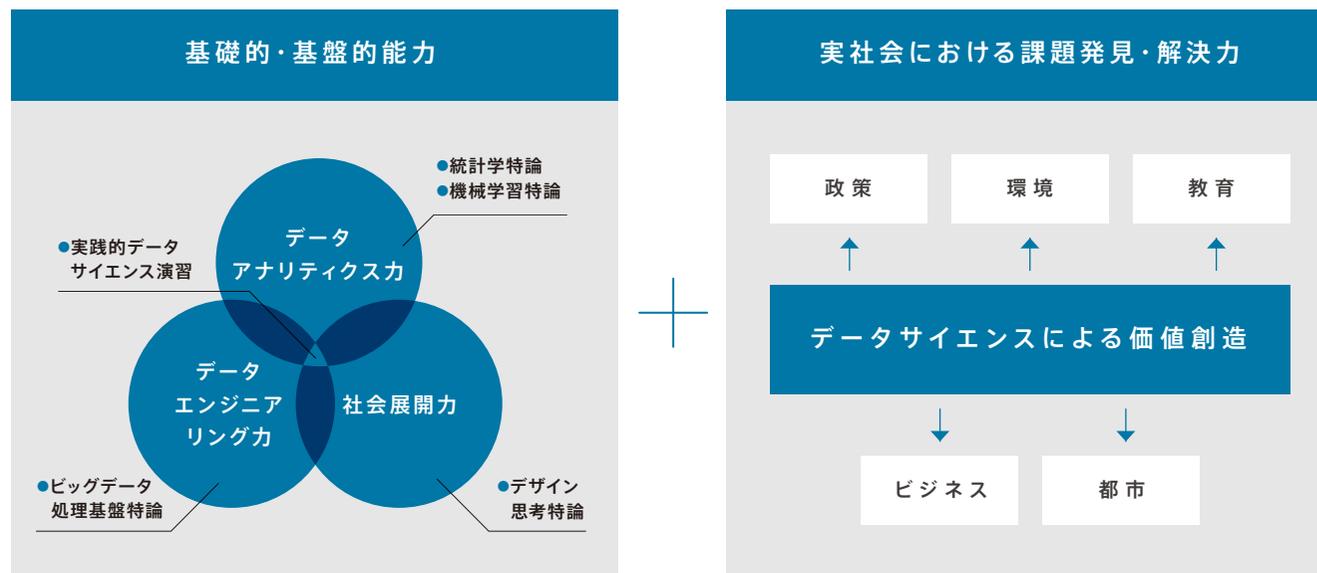
データを活用した社会課題解決を推進するデータサイエンティストを育成します。

データ サイエンス専攻 4つの特色

日々蓄積される膨大なデータから
新たな価値を創造し、社会課題の解決に挑む。
そんな人材を特徴的なプログラムにより
育成します。

01 3つの力でデータサイエンス力を鍛える

データサイエンス分野に特化した大学院として、2020年4月にデータサイエンス研究科^{*1}データサイエンス専攻を開設しました。本専攻は博士前期課程と博士後期課程で構成され、データ駆動型社会における社会課題解決を推進できる高度なデータサイエンティスト人材育成のための教育課程を用意しています。本専攻の大きな特徴は、従来のデータ解析における“現場の知識の重要性に対する認識不足”を解消し、前期課程のうちからPBL^{*2}を中心とした「実践的データサイエンス演習」を通して、データサイエンス力を育むことです。データアナリティクス力、データエンジニアリング力、社会展開力の涵養を中心とした教育・研究を展開します。



※1 横浜市立大学大学院データサイエンス研究科は、データサイエンス専攻とヘルスデータサイエンス専攻の2専攻から構成されます。 ※2 Project-Based Learning

02

■ 専門領域ごとにおける手厚い指導体制

専門的なデータサイエンス力を養うため、理学や情報学、経営学、教育学、環境学などといった専門領域ごとに配置されている専任教員のもと手厚い指導を受けられる体制を整えています。また、データサイエンスの研究に求められるアナリティクス力、エンジニアリング力、社会展開力は有機的に絡み合っており、個別的な専門領域に閉じることなく真のデータサイエンス力を身に付けることができます。

■ 全員必修の実践的演習

基礎理論を学びながら、実践的データサイエンス演習を中心に据えた学びを行います。学生が反省的思考や観察により現場の問題を認知したうえで明確にし、仮説を立て、研究計画を立案、仮説の妥当性の検証やそれに基づく推理を行います。社会実装などにより理論の有用性を検証する、という一連のプロセスを通してデータサイエンス力を身に付けることができます。

■ ユニークな独自カリキュラム

カリキュラムは、データアナリティクス力、データエンジニアリング力、社会展開力の3つの力を涵養するようバランス良く配置しています。特に課題解決型学修に根ざした、「実践的データサイエンス演習」の設置が大きな特徴となっています。

科目一例	実践的データサイエンス演習	統計学特論	機械学習特論	データマッピング特論	ビッグデータ処理基盤特論	デザイン思考特論
	現実社会においてデータサイエンスの力によって解決すべき課題を、それに直面している実務者との連携により実装する一連のプロセスを学ぶ。	一般化線形モデルを軸に据え、様々な統計モデルが一般化線形モデルとして統一的に議論できることを理解するための統計的推測法を学ぶ。	機械学習における理論的背景をもとに、プログラムを組んで実際の問題へ活用する方法まで、最新の成果を踏まえて学ぶ。	あるフォーマットデータから、他のフォーマットに変換することを指すデータマッピングを効率的かつ確実にを行うための手法を学ぶ。	ビッグデータに適した処理基盤の実例とそれらを支える技術要素について、近年注目されている事例を踏まえながら学ぶ。	デザイン思考について知識修得を目的として、参加型デザインの方法論を講義し、デザインワークショップの運営と参加の手法を体験を通じて学ぶ。

03 文理融合型の大学院データサイエンス専攻

今日のデータサイエンスを取り巻く環境においては、すでに文系・理系という区分を設けることが意味をなさなくなっています。そのような状況の中で、文理を融合した、高度なデータサイエンス力を獲得することで、データサイエンスの新たな分野を切り拓き、新たな価値を創出する研究者を育成します。そして、この高度なデータサイエンス力に基づき、国際社会や地域社会に貢献し、より良い社会の実現に向け努力できる力を養います。



04 前期課程から後期課程へ、充実した専門教育

データサイエンス専攻では、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。博士前期課程ではバランスの取れた座学の講義と、実践的データサイエンス演習を通じて、即戦力となる独り立ちレベルのデータサイエンティストを輩出します。さらに、博士後期課程では、より専門分野に特化した高度な研究活動を通じて、独創性・国際性・実践性を備えた棟梁レベルのデータサイエンティストを養成します。

※データサイエンス専攻の一部の科目は、みなとみらいサテライトキャンパス（横浜ランドマークタワー）において実施します。



みなとみらいサテライトキャンパス

■ 研究科概要

研究科名称	データサイエンス研究科
研究科の専攻構成及び授与学位	<p>■ データサイエンス専攻 (博士前期課程、博士後期課程) [授与学位] ・修士 (データサイエンス) Master of Data Science ・博士 (データサイエンス) Doctor of Data Science</p> <p>■ ヘルスデータサイエンス専攻 (博士前期課程、博士後期課程) [授与学位] ・修士 (ヘルスデータサイエンス) Master of Health Data Science ・博士 (ヘルスデータサイエンス) Doctor of Health Data Science</p>

キャンパス	金沢八景キャンパス・みなとみらいサテライトキャンパス
初年度学費 (2024年度実績)	[入学金] 市内出身者および横浜市立大学卒業生 / 141,000円 市外出身者 / 282,000円 [授業料] 535,800円 (年額) [その他の納入金] 学術研究会費 / 2,000円 後援会費 / 30,000円
サテライトキャンパスについて	2020年4月、横浜ランドマークタワー 7階に産学連携の拠点として、「横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス」を開設しました。 本拠点から多くのイノベーション人材やベンチャー企業、新規事業等を輩出することで、横浜市が掲げる「イノベーション都市・横浜」の実現を目指します。同サテライトキャンパスにおいて、データサイエンス研究科をはじめとする大学院教育などを実施します。

■ 2025年度データサイエンス専攻 入試概要

	博士前期課程		博士後期課程
試験区分	一般選抜	社会人特別選抜	一般選抜
募集人員	16名(若干名)	若干名(若干名)	3名(若干名)
出願期間	2024年7月22日(月)～7月24日(水) 消印有効 (2025年1月6日(月)～1月8日(水) 消印有効)		2024年8月19日(月)～8月21日(水) 消印有効 (2025年1月6日(月)～1月8日(水) 消印有効)
試験日	2024年8月21日(水) (2025年2月8日(土))		2024年9月21日(土) (2025年2月8日(土))
選抜方法	・筆記試験(基礎的数学) ・統計検定成績 ・英語資格成績 ・面接試験	書類審査及び面接試験	書類審査及び面接試験

● () 内は第2期募集を実施する場合の情報です。第1期募集の結果によっては、第2期募集を実施しない場合があります。

専攻長メッセージ



土屋 隆裕

データサイエンス専攻長

本学のデータサイエンス専攻には、専門領域が異なる多彩な顔ぶれの教員が揃っています。この多様性こそが、本専攻が持つ魅力の一つです。

VUCAと言われるこれからの時代の課題に取り組んでいくには、高い専門性ととも、幅広い見識が求められます。狭小な学問分野における知識技術や価値観だけで、昨今の社会課題に太刀打ちできるものではありません。データサイエンスは方法論に関する学問であり、方法論ゆえに、多くの異分野間で共通言語としての基盤的役割を担うことができます。あらゆるドメインに浸透することで、多種多様な分野に対してお互いの交流を促し、新たな刺激を与え、各学問分野の更なる活性化や発展に寄与するとともに、これからの時代には必須となる多面的かつ俯瞰的な視座を得るために貢献できる学問がデータサイエンスであると言えます。

本専攻には、データというキーワードを核として、多種多様な人々が集まってきています。数理的な理論を学ぶ講義から、現場を重視した実践的データサイエンス演習まで、充実したカリキュラムを用意しています。本専攻において、皆さんが教員と交流を深め、仲間たちと切磋琢磨し、どのような知の化学反応を引き起こしてくれるか、大いに期待しています。

お問い合わせ先

入学を考えている方でご質問のある方はお気軽にお問い合わせください。
質問を記載したメールを右記までお送りいただければ、
専任教員・スタッフより直接ご回答いたします。

横浜市立大学 アドミッションズセンター
Tel: 045-787-2055
E-mail: ycuadm@yokohama-cu.ac.jp

横浜市大 DS 研究科



<https://www.yokohama-cu.ac.jp/ds/>



GRADUATE SCHOOL OF
URBAN SOCIAL
AND CULTURAL
STUDIES

横浜市立大学大学院
都市社会文化
研究科



GUIDE BOOK 2025

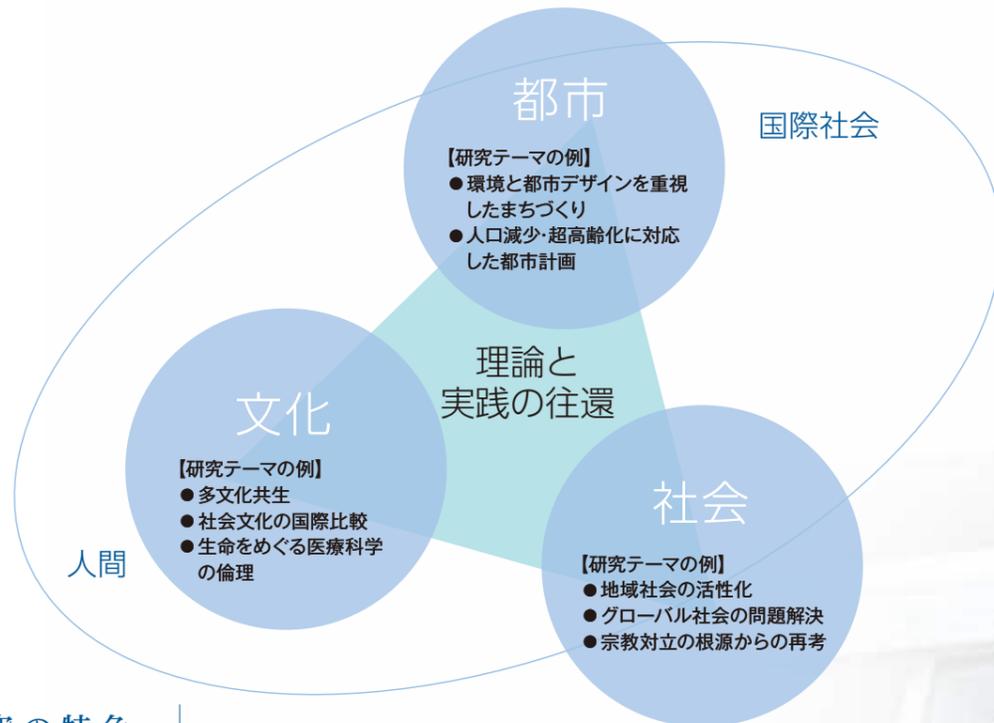
YCU
横浜市立大学

本研究科の研究とは

主要な研究領域である「都市」「社会」「文化」それぞれの研究ディシプリンを身に付けられる研究科です。また、それらの学際的融合領域に、人間から国際社会まで対象のスケールを問わず、「理論と実践を往還」しながら取り組むことができます。

研究科の理念

人間や国際社会に対する深い理解に基づく、現代都市社会の問題解決と新たな理念の創出



研究の特色

様々な社会問題・研究課題に対して、学際的なアプローチによって取り組んでいます。

研究テーマの例

- ・環境と都市デザインを重視したまちづくり
- ・人口減少・超高齢化に対応した都市計画
- ・地域社会の活性化
- ・グローバル社会の問題解決
- ・多文化共生
- ・社会文化の国際比較
- ・生命をめぐる医療科学の倫理

都市社会文化研究科のあゆみ

- 1949 (昭和24)年 新制大学として横浜市立大学設置
- 1993 (平成5)年 大学院国際文化研究科(博士前期課程)設置
- 1996 (平成8)年 大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置
- 2005 (平成17)年 大学法人化(公立大学法人横浜市立大学発足)
大学院国際総合科学研究科 設置(国際文化研究科、経営学研究科、経済学研究科、理学研究科を統合)
- 2009 (平成21)年 大学院国際総合科学研究科を再編し、都市社会文化研究科を設置(生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を同時に設置)

都市社会文化研究科のめざすもの

都市社会文化研究科は、国際都市横浜の公立大学に相応しい大学院として2009(平成21)年4月に開設されました。前身の国際文化研究科、国際総合科学研究科国際文化研究専攻の時期から通算すると、すでに4半世紀の実績を持ち、多くの院生を社会に送り出してきました。

本研究科は、急速に変化する現代社会の諸問題について、都市・地域・国際社会の課題を中心に、人間と文化に対する深い理解から得た着眼点を踏まえて実践的に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

ICT(情報通信技術)は世界を瞬時につなげ、AI(人工知能)やDX(デジタルトランスフォーメーション)は、グローバル化とともに、これまでの人間観を大きく変えました。現代の都市社会に生起する複雑な課題に対し、構造的に掘り下げて把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出すためには、特定の専門分野を踏まえた上で、その枠を超えた領域横断的・学

際的アプローチが求められます。また、具体的・現実的課題に取り組むにあたっては、人文科学の学問成果による人間の洞察にもとづく課題の検証や、課題の意味を解釈するための着眼点が必要となります。

本研究科は、このような理念のもと、現代社会におけるさまざまな課題について、学術的な観点による課題解決や問題の解釈を可能とする、多分野融合型の教育・研究体制を備えている点が大きな特徴です。

また、社会人の積極的な受け入れに取り組むとともに、地域社会における課題解決の実践力や問題意識を高めるための、産学官や地域社会と連携した教育プログラムや、学際性豊かな研究会を開催し、院生と教員、ゲスト講師との活発な研究交流を図っています。

本研究科の理念を共有し、広い視野と柔軟な思考力をもつ意欲あふれる学生のチャレンジを期待しております。

都市社会文化研究科長 松本 郁代



MM21地区



横浜中華街



横浜市立大学所蔵「再改横浜風景」

教育の特色

- 多分野融合型のカリキュラム編成
- 地域社会との連携
- 社会人の積極的受け入れ

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士(学術)
博士後期課程	3名	博士(学術)

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	次のような科目群によって構成され、2年間で合計30単位取得して修了します。	
	総合研究科目(2単位)	学外講師を招聘し、実践的関心の喚起を図る科目
	特講科目(16単位)	専門性を深める講義科目
	演習科目(8単位)	修士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目
	修士論文(4単位)	修士論文の提出により単位を取得
* なお、社会人学生を対象に、演習・修士論文の代わりに特別研究・研究報告書によって修了する方式もあります。		
博士後期課程	次の科目群から3年間で合計20単位取得し、博士論文審査を経て修了します。	
	多分野交流演習(2単位)	総合的・学際的視点の獲得を図る演習科目
	攻究科目(6単位)	各分野の専門性を深めるための講義科目
	演習科目(12単位)	博士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目

積極的に行われるフィールドワーク



都市社会文化研究科では、各教員の専門分野に即して、現場で学ぶ機会を大切にしています。また、学際的で社会人や留学生も多いことから、多様な立場での学生間の議論も活発に行われています。



履修のイメージ

目的や研究上の関心に応じた授業科目の組み合わせが可能です。下記は博士前期課程での履修例です(科目名一覧は6ページ)。

グローバルキャリアをめざして学ぶ場合	社会福祉を学び、研究報告書で修了する場合	まちづくりを学ぶ場合
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:1 ● 特講科目(16単位) 社会文化論特講:1(アジア文化論)、5(文化人類学) / 海外地域論特講:2(アジア地域論)、3(アジア社会史)、4(イスラム地域論) / 国際関係論特講:1(グローバル政治論)、2(グローバル経済論)、4(途上国開発論) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:3 ● 特講科目(20単位) 人間科学論特講:2(教育心理学)、3(発達心理学)、4(現代哲学) / 言語文化論特講:1(コミュニケーション論) / 都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論)、5(地方自治論) / 地域社会論特講:3(教育行政論)、4(メディア社会論)、6(社会学論) / 社会経済論特講:1(NPO論) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:1 ● 特講科目(16単位) まちづくり論特講:1(都市計画論)、3(市民まちづくり論)、5(防災まちづくり論)、6(不動産マネジメント論) / 都市・環境政策論特講:1(SDGsと都市環境論)、2(地域ガバナンス論)、3(都市政策論)、5(地方自治論)

※ この他、演習科目(8単位)および修士論文(4単位)(修士論文で修了する場合)、特別研究科目(8単位)(社会人が研究報告書で修了する場合)の履修が必要です。

修士論文テーマ例 2023年度修了者

- 均等法第一世代女性の個人化の過程と社会背景
～客室乗務員出身へのインタビューから見てくるもの～
- 住民による地域資源の活用からみた都市型コミュニティの可能性
～横浜市地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくり組織を事例に～
- 障がい福祉事業体のマネジメント
～地域 CSR による福祉支援システムの構築～
- コロナ禍における観光者の環境配慮行動の要因
～首都圏内居住者の個人旅行を対象に～
- 現代日本社会における就職活動と「私」
～就職活動において外見を整えることの意味～
- 医学生の解剖実習経験と死生観に関する社会学的考察の試み
～インタビュー調査を通して～
- 路線別の地区特性を考慮した横浜市における人口動態とその要因に関する研究
- 廃校活用における用途の数とその運営の実態
～複数の主体が関与する事例に着目して～
- ムスリム女性をめぐるメディア言説の変容:日本の新聞社説に着目して
- 被災マンションの迅速な再生に関する研究
～自主建替えに着目して～
- 会話分析に基づく日常会話中の他者修復戦略に関する事例分析
～日中会話を対象とする～
- 放課後児童クラブに通う児童の地域との関わりからみる地域愛着に関する研究
～児童と第三の大人との接触に着目して～

YCU Minatomirai Satellite Campus



みなとみらいサテライトキャンパス

2020年4月に横浜ランドマークタワー7階産学連携イノベーション拠点に開設された「横浜国立大学みなとみらいサテライトキャンパス」でも授業を行うことで、金沢八景キャンパスとは異なる環境での学びを実現しています。



活発な学際的議論



学外向けのアドバンストエクステンション講座(公開講座)などの特別講義も行っています。第一線で活躍するゲスト講師と担当教員との対談形式で行うことで、現代社会が抱える様々な課題について、実践と理論の両輪で理解を深めることができます。



オンラインを活用した授業でも、学生間の活発な議論を促しています。

持続可能な地域社会プログラム (平日夜間 + 土曜日開講プログラム)

ポストコロナの時代に求められるあらたな人材育成として、幅広い基礎学力に支えられているからこそその実践を大切に、社会で、そして地域で実践できる人材の育成を目指したプログラムを2021年4月よりスタートしました。

プログラムの特徴

- 人文科学, 社会科学, 法学, 社会工学, 人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業でプログラム修了

目指す地域社会

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会

学際的な研究会の開催

2021年度より「PPP・PFI研究会」が発足致しました。2023・2024年度は(財)民間都市開発推進機構から「PPP手法を用いた公的不動産マネジメントによるまちづくりの研究」というテーマで外部資金が採択され、実践的な研究に取り組んでいます。このほか、ジェンダー研究会や都市社会文化研究会など、研究科の教員・学生が参加する研究会を開催しています。

授業科目

※前期・後期課程とも、指導教員からの研究指導を受けます(演習・特別研究(前期)、研究演習(後期))。指導を担当可能な教員は教員紹介を参照してください。
※この情報は、2024年度のものであります。開講状況は変更になる場合があります。

博士前期課程

総合研究科目 2024年度テーマ例

- ・ SDGsの基礎と実践
- ・ 研究と方法論
- ・ 科学的研究法と測定法
- ・ 都市デザインと創造都市

特講基礎科目

人間科学論特講 現代倫理学 教育心理学 発達心理学 現代哲学	言語文化論特講 コミュニケーション論 アメリカ文化論 ヨーロッパ文化論 イギリス文化論 日本文化史 応用言語論 日本文化論	社会文化論特講 アジア文化論 多文化共生論 エスニシティ文化論 欧米社会論 文化人類学 日本社会史
まちづくり論特講 都市計画論	都市・環境政策論特講 SDGsと都市環境 地方自治論	国際関係論特講 途上国開発論

特講展開科目

まちづくり論特講 都市解析論 市民まちづくり論 都市デザイン論 防災まちづくり論 不動産マネジメント論 都市空間形成論	都市・環境政策論特講 地域ガバナンス論 都市政策論 環境論 公共政策論	地域社会論特講 地域精神保健論 ライフコース論 教育行政論 メディア社会論 福祉社会論 社会理論
社会経済論特講 NPO論 共生社会の地理学 都市ビジネス論 経済政策研究 観光政策論	海外地域論特講 文化交流史 アジア地域論 アジア社会史 イスラム地域論 欧米社会史	国際関係論特講 グローバル政治論 グローバル経済論 国際機構論 グローバル平和論 国際関係論

博士後期課程

多分野 交流演習	人間科学論攻究(1~8)	都市科学論攻究(1~6)
	地域社会文化論攻究(1~9)	国際社会論攻究(1~7)
	都市社会論攻究(1~8)	研究演習

SDGs のコンセプトに対応する授業

	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
中西 正彦											●						
後藤 寛			●	●				●	●	●	●	●					
三輪 律江			●	●	●						●						●
鈴木 伸治											●						
石川 永子			●	●							●		●				●
齊藤 広子											●	●					
青 正澄	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新垣 二郎											●						●
大島 誠												●					
阿内 春生				●													
浮田 徹嗣	●		●														
角田 隆一				●					●			●					●
渡會 知子	●			●	●				●	●							
有馬 貴之			●					●	●	●	●	●		●	●		●
乙坂 智子													●				
小野寺 淳	●	●						●	●	●							
柿崎 一郎				●													
山崎 和美				●	●												●
山根 徹也	●									●							●
上村 雄彦	●	●					●	●		●			●			●	●
高橋 力也	●	●		●	●					●			●	●	●	●	●
西海 洋志	●	●		●	●					●			●			●	●
吉田 栄一	●	●					●		●								●
有馬 齊																	●
山田 剛史				●													
江上 園子	●		●	●	●												●
川瀬 和也				●	●				●	●							●
佐藤 響子				●	●												
庄司 達也				●	●					●							●
平松 尚子				●	●					●							
土屋 慶子				●	●												
中谷 崇	●			●	●					●							●
松本 郁代					●					●							●
藤井 得弘				●						●							
滝田 祥子				●	●					●							●
坪谷 美歌子	●		●	●	●		●		●								●
金山 泰志				●													●

※この表は、研究科専任教員の専門分野と「SDGs 17の目標」を概観・網羅させたものです。各教員が担当科目授業内で扱う「SDGs 17の目標」はシラバスを確認するようにしてください。

修了後の進路 | 2021年度～2023年度修了者

小田急電鉄株式会社 日本生命保険相互会社 株式会社電通西日本 株式会社読売広告社 トヨタ不動産株式会社 株式会社JTB総合研究所 株式会社時事通信社 三菱地所レジデンス株式会社	中国建設銀行 パーソルプロセス&テクノロジー株式会社 社 LTEC株式会社 ディップ株式会社 株式会社GGハウスマネジメント 株式会社シンニチロ 公立大学法人横浜国立大学	横浜市役所 藤沢市役所 神奈川県教育委員会 東京医療保健大学 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜国立大学大学院(進学)
---	--	---

活躍する修了生

多様性が尊重され、持続可能な社会の実現に向けて 将来活躍する準備ができる環境



研究テーマ：東アジアの安全保障

国際政治を研究する上村ゼミに所属していました。ゼミではグローバルガバナンスや、世界での富の偏在をいかに解消していくかなど地球規模課題について皆で研究していました。私個人の研究テーマは東アジアの安全保障政策、具体的には日本と朝鮮戦争の関係、近年のパワーバランスの変化に伴う世界秩序の変化について研究していました。また、米国は深く東アジアの安全保障に関わっていますので、歴史的経緯やその時々の方針について、米国のナショナルアーカイブで分析することも多かったです。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

博士前期課程を修了後、2年間の民間企業での勤務と海外大学院留学を経て、現在は外務省専門調査員(政務担当)として、在シンガポール日本国大使館で働いています。仕事内容は、シンクタンクや有識者等との意見交換及び連携して情報収集をすること、そして、日本の外交政策の発信のために、セミナーや講演会の企画等を行っています。私の所属していた上村ゼミでは、フランス出身のギミール先生や当時、米国フルブライト招聘准教授として教鞭を取られていたフィルナー先生を交えてゼミが行われていました。仕事柄英語を使うことが非常に多いのですが、海外出身の先生方と喧々諤々議論し、多様な意見を学んだ経験は今でも仕事に役立っていると思いますし、YCUで学ぶことの大きな魅力だと思います。また、当時は、負荷のかかる作業でしたが、修論を英語で執筆した経験も今の仕事にかなり活かされていると思います。YCUにはWriting Centerがあり、サポート体制も整っています。

コロナ禍においても一歩先に進むために

研究テーマ：都市部高齢者における家庭外共食の成立要件に関する研究

家庭外共食に着目し、一般高齢者におけるまち資源との関わりを互助・共助の関係構築という観点から追及した研究です。共食(きょうしょく)とは、人と共に食事をするものですが、家庭外共食は食の社会的側面を意味します。研究では、修士課程(横浜国立大学大学院医学研究科看護学専攻)で把握した一般高齢者の食への価値観や健康状態の知見を基盤に、地域に存在する家庭外共食を社会資源として捉えるため、その指標探索をし、GISを用いた資源配置の分析等を実施しました。これまで取り組んだ研究の一部は、農林水産省の共食政策エビデンスとして採用されました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

私の基礎学問である看護学は、個や環境に迫っていきませんが、環境を捉える視座が弱点だと感じていました。小家族化や近隣支援体制の脆弱化が進む日本において、新しい着眼点で高齢者ケアを推進していく必要がありますが、私の専門である医療職としての限界に至り、悩んでいたところ、指導教官(三輪律江先生)のご専門である乳幼児生活圏やまち保育の考え方に出会い、その知見を援用するためご相談し、異分野の私を受け入れていただきました。テーマであった「家庭外共食」という概念を多角的に捉え、医療・保健領域だけでなく他分野も横断的に捉えて発信していく必要があるという着想において、大きな力を得たと感じています。多分野の諸先生の前で説得力のある説明を求められるという経験は、大変貴重でした。都市社会文化研究科において、批判的思考も教えて頂きました。



山之井 麻衣
博士後期課程 2021年度修了
現在：学校法人青葉学園 東京医療保健大学 医療保健学部 講師



まちづくり論特講



中西 正彦
NAKANISHI Masahiko

【研究分野】
都市計画、住宅政策

都市計画の制度論・計画論の観点から、人口減少時代に対応した都市のビジョンの描き方、都市構造再編や住宅再生等の研究および実践活動を行っている。実際の街に触れ、理論と実践の両面からの解決策導出を指導方針としている。

【担当科目】
[博士前期課程]都市計画論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻1、研究演習

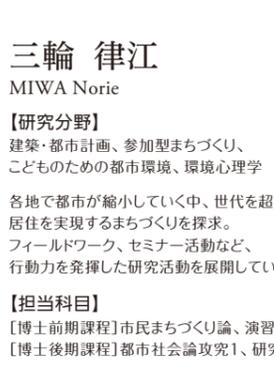


後藤 寛
GOTO Yutaka

【研究分野】
地理情報システム(GIS)、都市計画・都市解析

都市における面的な空間構造の分析・比較研究、さらには3次元GISのシステム構築と、それによるマイクロエリアマーケティング手法の開発など、さまざまな研究成果と研究方法を伝える。

【担当科目】
[博士前期課程]都市解析論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻5、研究演習



三輪 律江
MIWA Norie

【研究分野】
建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学

各地で都市が縮小していく中、世代を超えた居住を実現するまちづくりを探索。フィールドワーク、セミナー活動など、行動力を発揮した研究活動を展開している。

【担当科目】
[博士前期課程]市民まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻1、研究演習



鈴木 伸治
SUZUKI Nobuharu

【研究分野】
都市デザイン、歴史的環境保全、創造都市

都市空間の魅力を引き出す景観、歴史を生かしたまちづくりなど、都市デザインのあり方について研究に取り組む。近年は創造都市関連の研究、アジア都市における歴史的環境保全の研究へも幅を広げている。

【担当科目】
[博士前期課程]都市デザイン論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻3、研究演習



石川 永子
ISHIKAWA Eiko

【研究分野】
防災・復興のまちづくり、住居学、インクルーシブ防災

地震・水害対策と土地利用、事前復興まちづくり、災害後の住環境(避難所・仮住まい・住宅再建)と被災者の生活や心理、インクルーシブ防災について、フィールドワークや実践を通して研究。

【担当科目】
[博士前期課程]防災まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻2



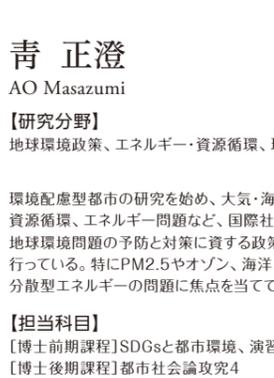
齊藤 広子 ※2025年度入試は学生募集停止
SAITO Hiroko

【研究分野】
不動産学、住環境マネジメント学、マンション管理学、すまいとまちのマネジメント

少子高齢化などにより、大きな転換が求められる現在の都市の政策や計画のなかで、住宅地・住宅・マンションなど、住まいまちが抱える課題を抽出し、総合的、学際的、実践的に解決方法を導き出す研究や実践を行う。

【担当科目】
[博士前期課程]不動産マネジメント論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻6、研究演習

都市・環境政策論特講



青 正澄
AO Masazumi

【研究分野】
地球環境政策、エネルギー・資源循環、環境協働

環境配慮型都市の研究を始め、大気・海洋汚染、資源循環、エネルギー問題など、国際社会が抱える地球環境問題の予防と対策に資する政策研究を行っている。特にPM2.5やオゾン、海洋ごみ、分散型エネルギーの問題に焦点を当てている。

【担当科目】
[博士前期課程]SDGsと都市環境、演習
[博士後期課程]都市社会論攻4



新垣 二郎
ARAKAKI Jiro

【研究分野】
地方自治論、地方政治論、行政学

基礎自治体レベルの政策決定をめぐる首長と議会の関係性のあり方について研究している。近年は、自治体議会の行政監視機能と政策立案機能の実際の働きなど、制度が予定していない実態の解明に関心を寄せている。

【担当科目】
[博士前期課程]地方自治論、演習



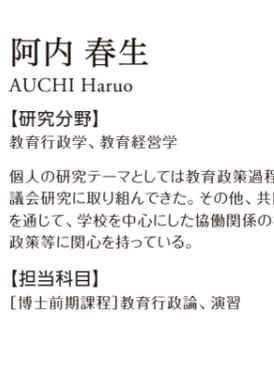
大島 誠
OSHIMA Makoto

【研究分野】
地方財政論、公共経営論、都市政策論

都市問題の解決主体である地方公共団体の活動について、財政的な側面から研究している。最近では、公共サービスの民営化、PFI(Private Finance Initiative)方式、水道事業、地域環境政策、省エネルギーなどである。

【担当科目】
[博士前期課程]都市政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻8、研究演習

地域社会論特講



阿内 春生
AUCHI Haruo

【研究分野】
教育行政学、教育経営学

個人の研究テーマとしては教育政策過程研究、地方議会研究に取り組んできた。その他、共同研究などを通して、学校を中心とした協働関係の構築、教員政策等に関心を持っている。

【担当科目】
[博士前期課程]教育行政論、演習



浮田 徹嗣 ※2025年度入試は学生募集停止
UKITA Tetsuji

【研究分野】
臨床心理学、精神分析学、精神保健学

不登校や引きこもり、子どもの家庭内暴力に対する親の相談に際して、ロールプレイングなどの手法を用いるなど、さまざまな考察をするともに、精神分析的心理学の再構築を目指す

【担当科目】
[博士前期課程]休講中
[博士後期課程]休講中



渡會 知子 ※2025年度入試は学生募集停止
WATARAI Tomoko

【研究分野】
社会学(社会理論)

専門は理論社会学、とりわけ社会システム理論。ドイツの「ポスト移民社会」を主な調査対象としながら、包摂と排除、空間、体験、意味などについて理論的に考察している。

【担当科目】
[博士前期課程]社会学論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻9



角田 隆一
TSUNODA Ryuichi

【研究分野】
社会学(文化社会学、現代社会論、メディア社会学)

メディア文化、ポピュラー文化、映像文化を事例とした近現代社会学。近年は「写真の社会学プロジェクト」の実践と理論構築も重点的に進めている。

【担当科目】
[博士前期課程]メディア社会学論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻6



教員紹介

社会経済論特講

有馬 貴之

ARIMA Takayuki

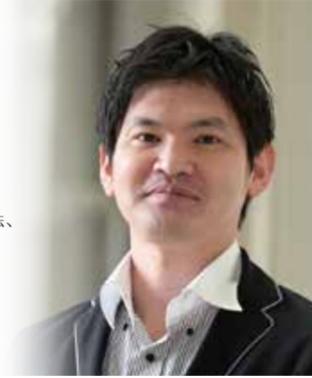
【研究分野】

観光地理学、観光政策論、観光教育

観光施設などのミクロな空間スケールから観光立国といったマクロな空間スケールまで、様々な空間スケールに合わせた状況把握手法、および政策やプランニングに関わるマネジメント手法について研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]観光政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻7



海外地域論特講

乙坂 智子

OTOSAKA Tomoko

【研究分野】

中国前近代政治史

おもに13世紀から17世紀にかけての中国とチベットとの関係を研究。当時の中国域においてチベット仏教が政治的に重視された理由などを考察。

【担当科目】

[博士前期課程]文化交流史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻3 研究演習



小野寺 淳

ONODERA Jun

【研究分野】

都市地理学、経済地理学、中国研究

地理学的なアプローチによって、現代アジアのダイナミズムを考察する。理論的な検討を深めるとともに、フィールドワークによる資料収集や現地調査も行い、実証的な研究へと昇華することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア地域論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻4、研究演習



山崎 和美

YAMAZAKI Kazumi

【研究分野】

イラン近現代史(女性史、教育史)
イスラーム地域(中東・北アフリカ・カフカス・中央アジア・南西アジアなど)研究

イランなどイスラーム世界の教育・女性・家族・子どもをめぐる諸問題について考察する。近現代イスラーム世界に関心を持つ学生が優れた論文を執筆できるよう指導する。

【担当科目】

[博士前期課程]イスラーム地域論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻7



柿崎 一郎

KAKIZAKI Ichiro

【研究分野】

タイ地域研究、インドシナ交通論

交通という視点からタイを中心とする東南アジア大陸部の地域像の変容を解明する研究を行う。地域研究の手法で対象地域を多角的に研究することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻4、研究演習



山根 徹也

YAMANE Tetsuya

【研究分野】

西洋史

ヨーロッパ、特にドイツ近現代史を専攻。近代市民社会の形成過程において、社会構造と統治形態が変化する中、支配層と民衆がどのような動きをしていたかなどを調査・分析研究を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]欧米社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻5、研究演習



国際関係論特講

上村 雄彦

UEMURA Takehiko

【研究分野】

グローバル政治論、グローバル公共政策論、グローバル・ガバナンス論

地球規模課題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を創造するために、グローバル・タックスなど必要な政策とガバナンス、実施主体に関する研究を行っている。(英語での開講可能)

【担当科目】

[博士前期課程]グローバル政治論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻1、研究演習



高橋 力也

TAKAHASHI Rikiya

【研究分野】

国際機構論

国際連盟と国際連合を中心として、国際機構がどのような発展を遂げ、現代国際社会に及ぼす影響を与えているかという問題について、主に歴史的な手法を用いて研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]国際機構論、演習



西海 洋志

NISHIKAI Hiroshi

【研究分野】

国際関係論、国際政治思想、平和構築

国際秩序および国際社会の形成、維持、再構築に関する歴史的、理論的、哲学的研究を軸としている。また、「保護する責任」など、人道危機に対処するための国際的な取り組みについても研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]国際関係論、演習



吉田 栄一

YOSHIDA Eiichi

【研究分野】

開発地理学、アフリカ研究、都市研究、開発援助研究

途上国の地域開発(都市・農村)とその担手(アクター)に関する研究。都市空間における社会的マイノリティに関する研究。

【担当科目】

[博士前期課程]途上国開発論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻2、研究演習



人間科学論特講

有馬 斉

ARIMA Hitoshi

【研究分野】

倫理学

終末期医療の倫理問題(安楽死、尊厳死の是非)などを中心に、生命倫理、応用倫理学の研究をしています。講義や演習では、主に重要文献の輪読とディスカッションを行います。

【担当科目】

[博士前期課程]演習
[博士後期課程]人間科学論攻6、研究演習



江上 園子

EGAMI Sonoko

【研究分野】

発達心理学 家族心理学

「ヒトは一生をかけて発達を遂げていく」という生涯発達心理学の観点をもとに、人間の社会的な発達についての研究を行っています。殊に、親としての発達、養育信念と養育態度の関連などについて検討しています。

【担当科目】

[博士前期課程]発達心理学、演習



川瀬 和也

KAWASE Kazuya

【研究分野】

哲学

19世紀ドイツの哲学者であるヘーゲルの哲学と、現代の分析哲学における行為の哲学をベースに、「人が生きるとはどういうことか」という問題に哲学からアプローチすることを目指している。

【担当科目】

[博士前期課程]現代哲学、演習



山田 剛史

YAMADA Tsuyoshi

【研究分野】

教育心理学、心理統計学、教育評価・測定

一事例実験データへの統計的方法の適用、一事例実験のメタ分析の理論と応用、項目反応理論の教育研究への応用、文系学生のための心理統計教育、反転授業などアクティブラーニングの評価。

【担当科目】

[博士前期課程]教育心理学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻3、研究演習



教員紹介

言語文化論特講



佐藤 響子 ※2025年度入試は
学生募集停止
SATOY Kyoko

【研究分野】
社会言語学

コミュニケーション活動の諸相を談話分析、言語とジェンダーの視点から考察する。理論とデータを往復しながら言語使用の背後にある規範、社会のありようなどを考える。

【担当科目】

[博士前期課程]コミュニケーション論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究5、研究演習



庄司 達也
SHOJI Tatsuya

【研究分野】
日本近代文学

芥川龍之介をはじめとする大正期文学について、また、出版メディアと作家、読者、文学の関係性について研究。素朴な疑問や発想を侮らず、発見や気づきを大切に研究態度を重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]日本文化論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究1、研究演習

土屋 慶子 ※2025年度入試は
学生募集停止
TSUCHIYA Keiko

【研究分野】

応用言語学、医療コミュニケーション、異文化コミュニケーション

語用論等の言語理論を応用し、社会的課題を読み解く。近年は、チーム医療や多言語コミュニケーションの場にて、人々がこぼす視線、ジェスチャーなどマルチモーダルな資源を用い、いかに他者との共同行為を行っているのかに注目している。

【担当科目】

[博士前期課程]応用言語論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究7



中谷 崇
NAKATANI Takashi

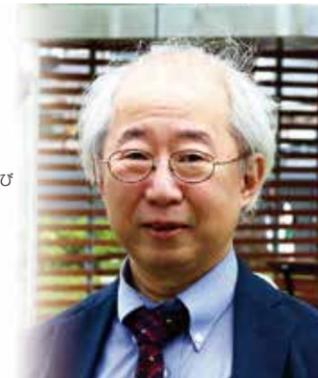
【研究分野】

現代アメリカ文学

アメリカ文学、特にWilliam FaulknerおよびJohn Updikeを中心とした現代（第一次世界大戦以降）の小説、批評理論、編集文献学。制度としての「文学」を問い直すところにこそ文学はあると考えている。

【担当科目】

[博士前期課程]アメリカ文化論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻究8



社会文化論特講



金山 泰志
KANAYAMA Yasuyuki

【研究分野】
日本近現代史

メディア史や文化史の視点から、近代日本における中国観（対中感情）の実証的把握を試みる。近代日本の他国・他者認識を問い直すことで、より良い国際関係（主に日中関係）を模索する。

【担当科目】

[博士前期課程]日本社会史



滝田 祥子
TAKITA Sachiko

【研究分野】
社会学

国境を超えた人の移動を社会学的に分析し、多文化共生の可能性を探る。エスニック・マイノリティの記憶の構造への関心から、個人が協働して社会を築いていく共生のあり方を模索する。

【担当科目】

[博士前期課程]多文化共生論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究3、研究演習

坪谷 美欧子
TSUBOYA Mioko

【研究分野】
社会学

国際移民の社会学の中でも世界に広がる中国人の移動現象を中心に、移民集団のナショナル/エスニック・アイデンティティについての研究を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]エスニシティ文化論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻究5、研究演習



藤井 得弘
FUJII Tokuhiko

【研究分野】
中国文学

中国近代における、異文化との接触によって生じた中国人のものの考え方や想像力の変化について、文学などを通して考察すること。とくに裁き物や探偵小説とその周辺に注目している。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア文化論、演習



平松 尚子
HIRAMATSU Naoko

【研究分野】

フランス語文学、外国語教育

20世紀フランス語圏文学、特にマルグリット・ユルスナール著作における東洋思想の影響について研究している。またフランス語教育を中心とした外国語教育に関する実証的研究に取り組んでいる。

【担当科目】

[博士前期課程]ヨーロッパ文化論、演習



松本 郁代
MATSUMOTO Ikuyo

【研究分野】

日本文化史

日本における文化・思想史の研究を行う。特に中世の歴史史料や絵画、文学や聖教資料などの分析を通じてどのような時代的特質が見出されるのか、多角的な視点から考察する。

【担当科目】

[博士前期課程]日本文化史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻究8、研究演習



在学生からのメッセージ

挑戦と発見の場所

張 蓉蓉 博士前期課程2年 東京経済大学・経済学部・国際経済学科

私は他大学を卒業し、YCUの都市社会文化研究科に入学しました。ここでは、多様なバックグラウンドを持つ仲間と出会い、先進的な研究に触れることができます。私がこの大学を選んだ理由は、単に学問を深める場所としてではなく、多様な考え方や文化に触れ、自分の視野を広げられる場所だからです。研究だけに留まらず、学生一人ひとりの夢や目標に向かって、全力でサポートしてくれる環境があります。YCUでは、学問的探求はもちろん、社会に対する貢献や実践的なスキルも身に付けることができます。自分自身の限界を超えて、新しい可能性に挑戦したい方には、最適な場です。



研究テーマ:化粧品広告における規範的女性像・男性像の構築と伝達についての考察

2023年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2					
3	演習I (対面)				総合研究科目1: 前期前半 (対面)
4		大学院特別講義 (対面)			総合研究科目1: 前期後半 (対面)
5					
6		海外地域論特講I (対面)		言語文化論特講I (対面)	
7					

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					地域社会論特講4 (対面)
2					
3	演習II				
4		地域社会論特講6 (対面)		社会文化論特講1 (対面)	
5					
6		都市・環境政策論特講3 (オンライン)		言語文化論特講4 (対面)	
7					

様々な学生に出会い、 分野を超えた交流のできる場所

山口 友理香 博士前期課程2年 横浜市立大学国際教養学部国際教養学科

私は早期履修制度を利用して学部4年生から大学院科目を履修しつつ、2023年3月にYCUを卒業し、大学院へ進学しました。研究の軸はイスラーム地域研究と社会学です。そのため、分野を横断しつつ学ぶことのできる本研究科に進学しました。本研究科の魅力は、少人数制で様々な研究をしている方と同じ授業を取ることができることです。自身の分野を研究しているだけでは出会えない視点を持つことができたり、様々な方と交流を持つことができたりします。社会人学生の方もおり、ディスカッションの際には新たな知見が得られることも多いです。また、先生方の指導も手厚く、研究を進める上で相談できる先生が多いことも魅力的です。



研究テーマ:日本におけるニューカマー・ムスリム家庭の若者:ムスリムの持つ自己認識の多様性に着目して

2023年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2		副演習I (対面)			
3		演習III (対面)			
4					
5					
6	言語文化論特講3 (対面)	海外地域論特講1 (対面)		言語文化論特講1 (対面)	
7					

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					地域社会論特講4 (対面・オンライン)
2		副演習II (対面)			
3					
4		地域社会論特講6 (対面)			
5					
6					演習IV (オンライン)
7					



「横浜」を舞台に様々な アプローチから都市を学べる場

長縄 旺介 博士前期課程2年 横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科

本学の学部生4年次にて早期履修制度を活用し、大学院へ進学しました。私が興味を持っていた都市デザインや地域コミュニティについて、より専門的な知識を得るために、日々学習や研究に励んでいます。

本研究科の魅力は、大都市であり様々な環境や課題を抱える横浜市を主な舞台として、都市について横断的かつ深く学べることです。授業では、事例の視察やプロフェッショナルの方からお話を伺える機会も多く、自身の研究だけでなく今後の進路を検討する上でも大変参考になっています。また、在籍する学生の年代や専門分野も幅広く、学生間での意見交換を通じた学びを得ることができるのも、本研究科ならではの魅力を感じています。

研究テーマ:「小商い」の展開が地域コミュニティの形成に与える影響について

2023年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2		社会経済論特講5 (対面)			総合研究科目1: (対面)※聴講
3					総合研究科目1: (対面)※聴講
4					
5	まちづくり論特講2 (対面)	社会文化論特講6 (対面)			
6		まちづくり論特講4 (対面)※聴講			
7		演習III (対面)			

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					まちづくり論特講3 (対面)※聴講
2					
3					
4					
5					
6					
7			演習II (対面)※聴講		



発展途上国および世界各国の 都市開発の将来に非常に役立つ講義

MUHAMMAD AINUN FIKRI 博士後期課程1年 HASANUDDIN大学 都市・地域計画

インドネシアの大学を卒業した後、横浜市立大学で博士前期課程を修了し、現在は博士後期課程に進学しています。インドネシアやASEAN諸国の都市開発および都市問題の改善には、日本から経済面だけではなくモデルや技術など多くのものを取り入れています。修士論文では日本の都市再生特別地区に関する研究をして、博士後期課程でも都市再生をテーマに研究を続けています。これからインドネシアでは都市再生が大事になって来ると思うので、日本の都市政策と市民まちづくりについて授業で学びたいと思っています。特に横浜市は、インドネシアの都市と同じ様に港湾都市であるため、インドネシアでの実施に適している傾向にあると思います。重点的に勉強していきたいと考えています。

研究テーマ:東アジア型の都市再生の実態と要件に関する研究

2023年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1		研究演習I			
2					
3					
4					多分野交流 演習
5					
6	都市科学論攻5				
7		都市科学論攻I			

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					都市科学論攻1
2					
3					
4					
5					
6					
7		研究演習II			

入試情報

学部・大学院構成



2025年度 都市社会文化研究科入試日程

課程	専攻	入学定員	区分	募集人員	出願期間	入試	合格発表	入学手続期間
博士前期	都市社会文化専攻	20	学内推薦	若干名	8月5日(月)~7日(水)	9月14日(土)	9月27日(金)	10月7日(月)~9日(水)
			第1期*	10	8月5日(月)~7日(水) 必着	9月14日(土)	9月27日(金)	10月7日(月)~9日(水)
			第2期*	10	1月6日(月)~8日(水) 必着	2月8日(土)	2月21日(金)	3月3日(月)~3月5日(水)
博士後期		3	※	3	1月6日(月)~8日(水) 必着	1月23日(木) ※書類審査 2月8日(土) ※口述試験	1月31日(金) 2月21日(金)	- 3月3日(月)~3月5日(水)

※出願資格区分は、一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜があります。出願資格に関する詳細は、学生募集要項で確認してください。

選抜方法

課程	試験科目
博士前期課程(第1期・第2期共通)	筆記試験(共通問題・専門科目)及び口述試験
博士後期課程	【第1次選抜】書類審査 【第2次選抜】口述試験



都市社会文化研究科入試結果

〈博士前期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2024年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	8	8	8	8
			第1期*	10	13	12	6	5
			第2期*	10	7	7	4	4
			合計	20	28	27	18	17
2023年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	6	6	6	6
			第1期*	10	16	14	7	5
			第2期*	10	17	16	8	6
			合計	20	39	36	21	17
2022年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	5	5	5	5
			第1期*	10	22	21	12	10
			第2期*	10	15	15	5	5
			合計	20	42	41	22	20

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

〈博士後期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2024年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	2	2
2023年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	3	3
2022年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	5	4	3	3

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

学費

(単位:円)

項目	博士前期課程		博士後期課程		
	市内*2	市外	市内*2	市外	
学費	入学金*1	141,000	282,000	141,000	282,000
	授業料*1	535,800		535,800	
諸会費*3	学術研究会費	2,000		2,000	
	後援会会費	30,000		30,000	
納付金合計		708,800	849,800	708,800	849,800
入学時納付金合計		173,000	314,000	173,000	314,000

*1 入学金・授業料は2024年度の金額です。金額について改定する場合があります。金額が改定された場合は、改定後の金額が適用されます。なお、授業料は分納(5月・10月)です。

*2 「市内出身者」とは、入学の日の1年以上前(2024年4月1日以前)から引き続き横浜市内に本人または扶養義務者が住所を有する者をいいます。

*3 本学の学術・研究・学生生活の充実や福利厚生の上を目的とした活動を行う各団体の会費となります。

入試説明会(オンライン)を実施します!

都市社会文化研究科の概要や入試概要についての説明会を年2回実施しております。詳細は都市社会文化研究科のWEBサイトでご確認ください。

	実施予定日	内容(予定)
第1回	2024年5月23日(木)	・都市社会文化研究科の概要 ・2025年度入試概要 ・教員紹介
第2回	2024年11月7日(木)	・大学院生による院生生活紹介 ・分野別説明 ・入試相談

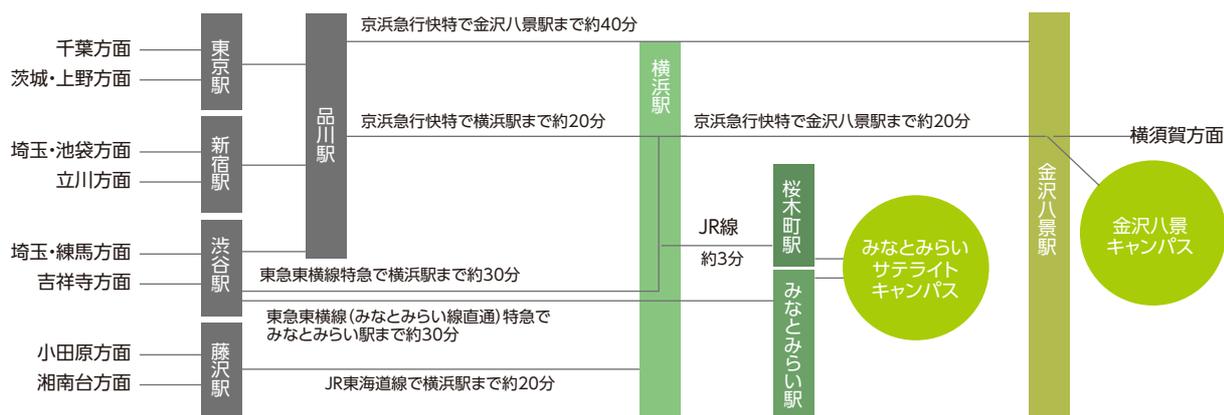
社会人にも学びやすい環境

半数近い授業科目を平日夜間及び土曜日に開講し、また修士論文によらない修了も可能とするなど社会人が学びやすい条件を整えています。

また、資格を満たしていれば、修業年数を超過して一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる長期履修制度もあり、積極的に社会人を受け入れています。

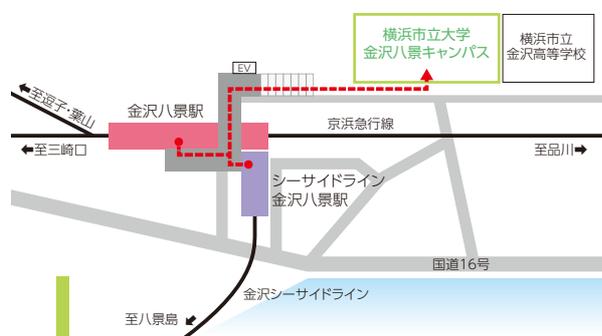


首都圏各地から金沢八景キャンパスおよびみなとみらいサテライトキャンパスまでの交通路線案内



記載の路線は代表的なもので、これ以外にもアクセス方法がございます。

都市社会文化研究科で主に利用するキャンパス



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
京浜急行「金沢八景駅」から徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」から徒歩5分



みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩3分

YCUその他のキャンパス

鶴見キャンパス

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
(生命医科学研究科など)

舞岡キャンパス(木原生物学研究所)

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
(生命ナノシステム科学研究科など)

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9
(医学研究科など)

YCU
横浜市立大学

横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/index.html>

